

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども教室 ステップ		
○保護者評価実施期間	令和 6年 4月 1日 ～ 令和 7年 3月 1日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27 (回答者数)	18
○従業者評価実施期間	令和 6年 4月 1日 ～ 令和 7年 3月 1日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・専門職（理学療法士）を配置している。 ・勤務年数が長い児童指導員さんが多い。	・その子にあった支援の仕方やアプローチ方法を考え、工夫しながら集団活動や感覚統合療育で取り組んでいる。専門職による相談に応じることができている。	・支援を開始する前に打ち合わせを行い、情報共有してその日の内容をお互いで確認し合いながら支援を行っていく。 ・専門職の観点から観た実態把握や支援に関する研修の機会を設けていく。また、社外研修やセミナーに参加し、知識や技術を学んで実践に生かしていく。
2	・就労継続支援A型が下の階にあり、デイサービスを卒業しても就労移行支援へと繋げていけること。	・就労継続支援A型に移行するときには、情報共有しながら連携している。 ・就労継続支援A型で行っている作業を研修という形で体験してもらっている。	・継続して集団活動の時のルールやマナーを教え、就労及び自立に向けた活動を取り入れ、社会性を高めながら行っていく。 ・その子にとって今後必要な就労は何か考えて、様々な職種で体験出来るよう情報収集をして提供していく。
3	・平日も土曜日も事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫している。	・室内では活動内容に合わせて部屋を分けて、家具や遊具など、配置を工夫し適切なスペースを確保している。 ・課外活動では、公共交通機関の使い方を勉強したり、公共の場での他人に対する配慮や基本的なマナーを実体験を通して学んでいき、日常生活でも役立てるよう取り組んでいる。	・療育の視点に児童達からの要望も含め、今後もより良い課題や活動内容を提供していき、その都度改善しながら行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・職員一人ひとりの療育力・専門性の向上等、事業所全体で底上げが必要である。	・個別活動や小集団活動においてはお子様の様子に応じて臨機応変に支援プログラムを組み立てる力が必要なため、個々の経験や知識によって偏りが生じやすい。	・研修に参加できる機会を増やし強化を図っていく。 ・職員間で情報共有を密におこないチーム全体で支援方向を検討していくことで質の向上を目指していく。
2	・事業所と保護者様との交流機会が少ない。 ・放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会が少ない。	・事業所と保護者様との交流機会が少ないこと。 ・保護者様同士が顔合わせの機会が少ないこと。 ・保護者様やご兄弟が参加できるイベントが少ないこと。 ・他事業所との関わりが少ないこと。	・可能な限り保護者様同士の交流できる場を設け、保護者様が気軽に困りごとや相談等できる環境を提供していく。 ・親子、兄弟が参加できるイベントを企画していく。 ・事業所内だけでなく他事業所や地域の他のこどもとも関わりを増やす活動を企画していく。
3	・非常災害時対策の周知が不十分である。	・安全計画書をお便りとして保護者様に通知したが、すべて周知出来ていない部分がある。 ・保護者に対して訓練の説明やSNSでの公表を行っているが、マニュアルは開示していない。	・定期的に避難・救出訓練をおこない、子ども達の安全を守る取り組みについても、SNS、お便りや連絡帳等で保護者様と共有できる形で発信していく。 ・特定日以外でも子供たち全員が、訓練に参加できるプログラムを提供していく。